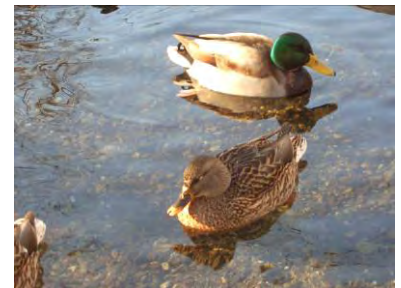


2008 年度 北大生協

環境報告書



北海道大学生生活協同組合

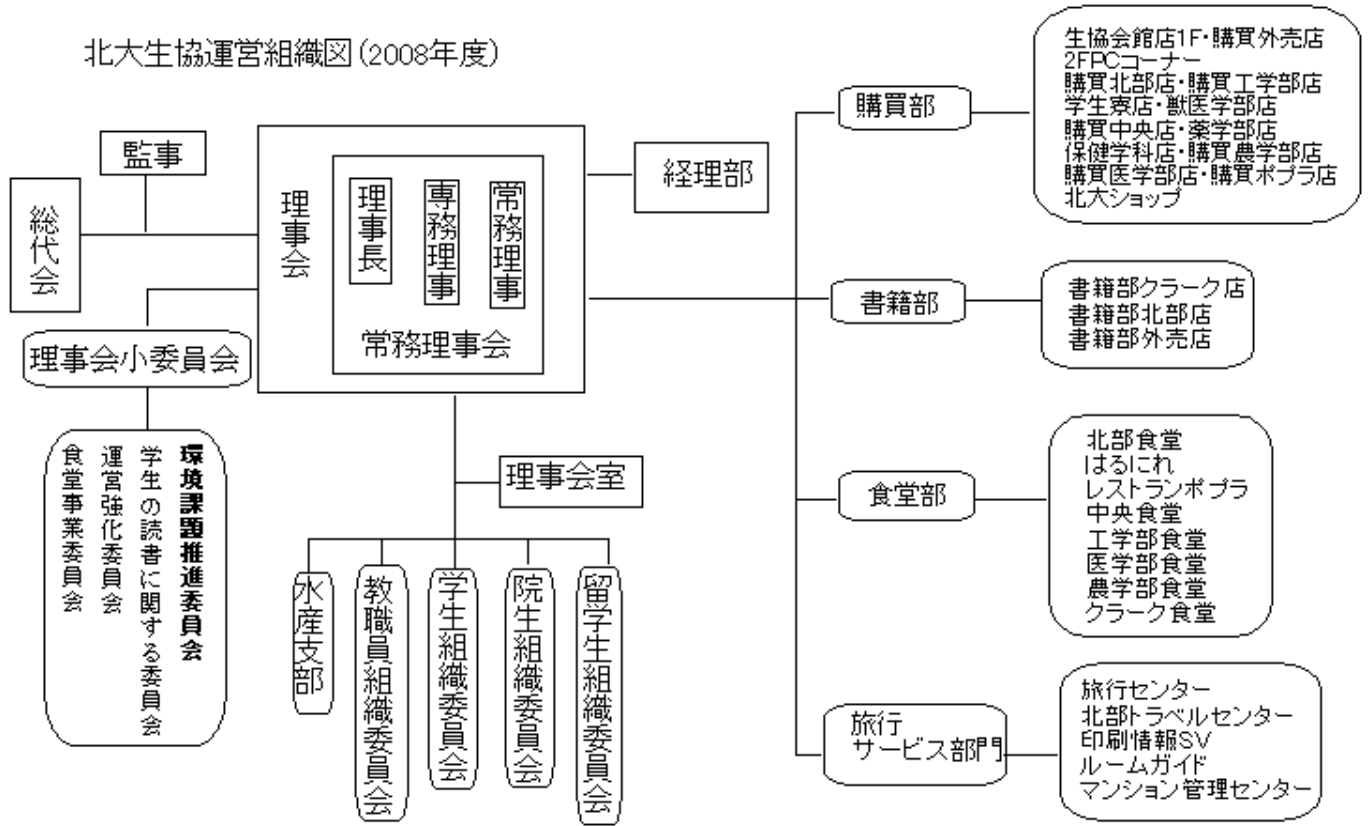


目次

◇北大生協の事業概要	2
◇専務理事あいさつ	3
◇環境方針	4
◇環境実施体制	5
◇2008年度の取り組みと課題	6
◇重点課題の取り組み紹介	
■ レジ袋削減運動	7
■ 北大生協の電気使用量	9
■ 環境配慮への啓蒙活動	11
◇その他の取り組み紹介	
■ 食品生ごみの分別	13
■ ガス使用量	14
■ ガソリン・軽油・重油使用量	
■ 紙の再資源化	
■ 産業廃棄物の回収量	15
■ 水道使用量	
■ 使用済みカートリッジの回収	16
■ 食堂の廃油のBDF化	
■ 国産間伐材割り箸の使用	17
■ グリーン適合商品の優先供給	
■ 食堂の排水管理	18
■ 不要自転車・放置自転車の回収	
■ 組合員の環境活動への支援	20
■ 缶・ビン・ペットボトルの再資源化	22



◇ 北大生協の事業概要



組合員概況表 (2009年2月28日現在)

構成区分	組合員数	構成区分	組合員数
□ 学生	14,316	□ 生協職員	772
□ 院生	6,118	□ 一般	1,163
□ 教職員	7,443	■ 合計	29,912

学生組合員の約 1/4 は卒業入学で毎年入れ替わっておりますが、90%以上の高い加入率を維持しています。

出資金総額 455,110,072 円

主要数値

項目	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
組合員数	28,011	28,590	29,193	29,610	29,812
出資金総額(千円)	441,915	447,214	452,790	454,560	455,110
総供給額(千円)	6,597,112	6,530,183	6,504,334	6,342,700	6,245,410
経常剰余千円)	11,437	32,366	25,342	24,897	26,241
正規職員数	65	63	61	61	58
非正規職員数(正規換算)	191	195	208	208	218

組合員数・出資金総額は、順調に増加しています。耐震工事による工学部食堂の長期閉店がありましたが、他店舗の頑張りや費用の節約などで、経常剰余は前年比で5%近く伸長しています。

部門別供給高

部門	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
購買(千円)	2,471,596	2,580,945	2,582,035	2,573,305	2,735,554
書籍(千円)	1,012,672	994,360	991,757	966,893	930,607
食堂(千円)	693,200	659,085	770,083	792,891	1,019,284
旅行(千円)	2,111,659	2,012,828	1,875,766	1,684,456	1,202,969
その他サービス(千円)	307,985	282,965	284,693	325,155	356,996
合計	6,597,112	6,530,183	6,504,334	6,342,700	6,245,410



◇ 専務理事挨拶

2008年度 環境配慮へのとりくみ紹介

2005年度から行っております、「2008年度 環境配慮へのとりくみ紹介」のまとめを今年も作成いたしました。

去年の7月に洞爺湖町で環境問題をテーマとしました G8が開催されました。北海道大学では、今年で3年目となります持続可能な社会の実現に向けた、“サステナビリティ・ウィーク”の開催を予定して、より良い未来に向けた一步を踏み出すこととしています。



北大生協は、2005年9月に北海道大学の環境方針が定められたことを受けまして、2005年10月に北海道大学の環境方針に沿って環境負荷の低減と環境保全に努めるために「北大生協環境方針」を決定しました。さらに、「環境保全は私たちが行う様々な活動の基礎である」との認識にたち、様々な福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的かつ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定してまいりました。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と汚染の予防をはかり、環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めています。

この間の取り組みをご紹介しますと、2006年度から行っている①道内産の森林育成につながる割り箸の採用(06年10月から)②食堂から出る廃油の再資源化(06年11月から)③大学内の放置自転車の再資源化(06年11月から)④北大女性研究者支援室に協力したトナー・インクカートリッジの回収(07年9月から)⑤食堂を中心としたごみ分別強化(07年10月から)などに続き、2008年度はレジ袋の削減と電気ガス水道等の使用実績の削減に向けた検討などを行っています。レジ袋の削減に向けた取り組みでは、ポスター・棚POP等のお知らせと職員からの声かけ等により、レジ袋は約4割の減少となっています。

今後は、理事会のもとに設置した環境課題推進委員会で、2008年度の取り組みを踏まえて、引き続き環境課題に取り組んでまいります。

毎年、確実に一步・一步前進していきたいと思っておりますので、引き続きご指導をお願いします。

2009年5月1日
専務理事 中村 伸司



◇ 環境方針

北大生協は2005年10月24日の第5回理事会において下記の「北大生協環境方針」を決定しました。北大生協は「大学とその構成員への貢献をとおして大学を発展させる立場」、「北海道大学の福利厚生を担う構内事業者としての立場」、「北海道大学の環境方針及び環境マネジメント実施体制を尊重し環境への付加低減に努める立場」からこの取り組み紹介を公開いたします。

北大生協環境方針

私たち北海道大学生生活協同組合は、「環境保全は私たちの行う様々な活動の基礎である」との認識にたち、様々な福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的且つ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定します。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と汚染の予防を図り、環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めていきます。

- 1) 北海道大学の環境方針、環境関連の法律、規制、条例及びその他受け入れを決めた事項を遵守します。
- 2) 北海道大学の環境マネジメント実施体制に積極的に参画します。それらの活動に参加する組合員の活動を応援します。
- 3) 生協施設における電気・ガス・水道および紙・包装資材の使用量を抑制するとともに、事業系廃棄物の削減・再資源化に努めます。
- 4) 環境負荷に配慮した商品の開発・改善・普及をすすめます。また「グリーン購入」の取り組みを推進します。
- 5) 学生・院生の環境配慮に関する活動の場をたくさん作り、北大構成員自身による環境活動を広げます。

この環境方針を内外に公開するとともに、環境活動への取り組み状況について定期的に公表します。また方針を具体化していくうえで役職員（理事・監事・組織委員・生協職員）の日々の実践の積み重ねを大切にし、全役職員への教育・学習を積極的に行い、さらに学生・教職員を対象とする啓蒙活動と諸活動への参加の呼びかけを行って、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

2005年10月24日
北海道大学生生活協同組合
第5回理事会

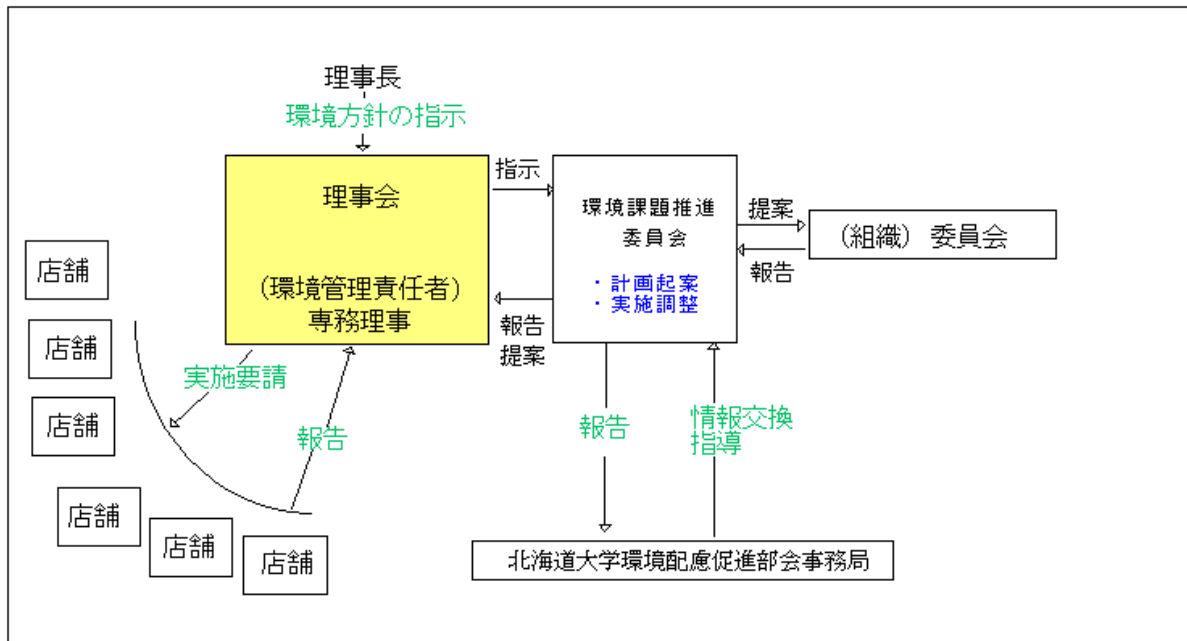
《北大生協の3つの使命》

1. 北大生協は、北大の勉学・教育・研究の発展に安心と信頼のサービスで貢献します。
2. 北大生協は、学生・院生の自立・成長と学内構成員の協力・共同の促進に寄与します。
3. 北大生協は、持続的発展可能な地域社会・国際社会の実現に向けて力を尽くします。

北大生協は自らに課した上記「3つの使命」を基本とし環境配慮への取り組みを展開します。



◇ 環境実施体制



2007年度は、環境監査委員会として環境配慮への取り組み状況を監査検討し、課題について意見を出し合う立場でしたが、2008年度は名称を「環境課題推進委員会」とし、環境課題に対して実務的に動く理事会室に向けて、環境課題の様々なことを提起し、議論し、提案していく立場に進化しています。この委員会で作られた提案事項は、理事会室を通して、各生協店舗・委員会に活動実施の要請、提起という形で活かされます。

■2008年度の委員会活動

《メンバー》

委員長 萩野（学生）

委員 青木（教員）・大谷内（院生）・武内（院生）・小山内（学生）・清水（学生）・早川（学生）
栗野（学生）・後藤（事務局）

《主な活動》

- ・ 7月2日の第1回委員会を皮切りに15回の委員会を開催しました。
- ・ 「北大生協の環境課題と目標」を定め、理事会に提出しました。
 - ①情報公開 ②環境配慮への啓発 ③エネルギー消費を抑える ④レジ袋削減
 - ⑤資源の循環利用 ⑥グリーン適合製品の優先供給 ⑦排水の管理 ⑧学内放置自転車について
- ・ 生協会館店電気量の削減のため、会館店ツアーを行い、店長を交えて具体的な方法を討議しました。
- ・ 大学生協連主催の環境セミナーに学生と生協職員が一人ずつ参加して、分科会での発表やブース参加などで全国の仲間と交流してきました。
- ・ 北大で開催された環境省北海道環境事務所主催の「地球温暖化に関する意見交換会」への参加のお誘いをいただき、萩野委員長が講演を行いました。
- ・ レジ袋削減運動を積極的に進めるため、アンケートを実施しました。その結果を基に、『2009年4月1日から「すべての購買のレジで、お申し出のない限りレジ袋はお渡ししない」こととし、レジ袋使用率の低下を目指す』ことを理事会に提案し、承認されました。
- ・ 2008年度環境報告書を作成しました。



◇ 2008年度の取り組みと課題

NO	基本方針	環境項目	2008年度の環境目標	取り組み・成果・自己評価	今後の課題・取り組みなど
3	社会への 貢献	情報公開	・環境報告を半期ごとに公開します。	上期の環境報告を作成し、ホームページ上で公開しました。「2008年度環境報告書」を総代会に間に合うよう発行することができました。	2009年度の環境課題・目標を早急に作成し、公開します。
			・大学の環境負荷低減の取り組みに積極的に参画し、協力してまいります。	環境省主催の「地球温暖化に関する意見交換会」に参加させていただき、活動の発表をしました。	引き続き、大学の施設部や他部局と連絡を取りながら大学との協力関係を築いていきます。
5		地域貢献 (環境配慮への啓発)	・大学祭でのごみナビゲーションを年間の活動に広げて、ごみ分別について学ぶ機会を広げていきます。 ・機関紙(きぼうの虹やletter)を通じて、北大生協の環境への取り組みを知らせるとともに、組合員に対して環境配慮への意識向上を促していきます。	大学祭では、多くの北大生、来場者にごみ分別の大切さや具体的な方法を伝えることができました。 機関紙で、研究課題に関することを取り上げ、各記事の中で、組合員への情報提供と、環境について考えることを提案しています。	ごみの分別の大切さや方法を、より分かりやすく効率的に伝えていきます。 組合員と一緒に環境について学習できる機会を増やします。
6		省エネルギー	・会館店の電気使用量を削減するための手順書を作成し実践します。	具体的な手順書は作成できませんでしたが、各店舗の店長の協力で、夏季、年間ともに電気量を削減することができました。	引き続きクールビズに取り組むとともに、ウォームビズについても呼びかけていきます。
7		省資源	・レジ袋削減運動を進めるため、店内放送や枚数把握に努めます。	店内放送用のテープは作成しましたが、残念ながら環境が整わず、殆ど活かされませんでした。 アンケートや三角POPなどで、組合員に呼びかけて、2009年4月から、基本的にレジ袋は必要な方しか渡さないことを決めました。	各店舗のレジ袋使用率を把握して、よりいっそうの削減に取り組みます。
9		資源の 循環利用	・食品リサイクル方改正を受けて、食品生ごみの分別を開始し、同時に資源化ごみの分別を進めます。 ・使用済みトナーやインクのカートリッジ回収・食品廃油のBDF化・国産間伐材割箸の使用などの資源の循環利用に引き続き取り組みます。	2008年8月までに全食堂で食品生ごみの分別が開始しました。その結果、資源化ごみが増え、一般ごみが激減しました。 今年度も順調に進めることができました。	毎月のリサイクル率を報告して、よりいっそうのリサイクルに努めます。 トナーカートリッジや廃油などを回収していることを、たくさんの組合員に知らせていきます。
11		グリーン 購入法	・大学でのグリーン購入に応られるように、店頭での適合商品案内や適合品の比率向上に努めます。	今年も進展がありませんでした。	コープカタログのグリーン購入適合品の減少の理由を調査します。 学習の機会を設けます。
13		環境保全	・学内で営業している食堂の排水の浄化を促進します。	グリストラップにオン分解装置をつけて排水を浄化しています。食堂8ヶ所のうち、5ヶ所に装置をつけました。	年に2回の水質検査を行い排水の浄化に努めます。
14			・学内の放置自転車を減らし、正しい方法でリサイクルできるようにします。	放置自転車3(取りのご依頼は、2007年度は4学部でしたが、2008年度は11学部助りました。1,048台になりました。組合員からのご提供は、243台でした。	学内に自転車を放置しないように組合員に呼びかけるとともに、大学部局との連携を密にして放置自転車の減少に努めます。

※ NO.、基本方針、環境項目は、「北海道大学2007年度環境報告書」に符合しています。



◇ 重点課題の取り組み紹介

■ レジ袋削減運動

北大生協では 2007 年 10 月からレジ袋削減運動に取り組んできました。職員の声掛けや店内のお知らせなどで組合員の皆様にご協力をお願いした結果、下表のように購買各店で約 20～80%のレジ袋使用率の削減を達成しました。

各購買におけるレジ袋使用枚数と削減率

《主な取り組み》

- ・昼混雑時に店内放送での呼びかけ（生協会館店のみ）
- ・購買北部店、購買中央店でレジ袋枚数を毎日計数、「先週のレジ袋使用率」掲示ボードを作成し運用中
- ・食堂にPOPを設置し削減運動への協力呼びかけ、アンケート実施（表参照）
- ・2009 年 4 月 1 日から購買全店でレジ袋を渡さずに、必要な方だけに配布

店舗名	08 レジ袋合計	07 レジ袋合計	増減	削減率
会館店 1 階	139,300	185,700	-46,400	25%
購買中央店	100,700	175,000	-74,300	43%
購買工学部店	110,000	154,500	-44,500	22%
購買北部店	62,500	152,000	-89,500	59%
保健学科店	3,300	23,300	-20,000	85%
購買医学部店	33,400	47,600	-14,200	30%
薬学部店	21,300	44,300	-23,000	52%
購買農学部店	20,400	33,600	-13,200	40%
獣医学部店	21,000	26,200	-5,200	20%
水産店	2,000	10,000	-8,000	80%
合計	513,900	852,200	-338,300	40%

購入枚数から計測しました。ポストゲノム（現ポプラ）店、学寮店は除く

《購買北部店、購買中央店での取り組み》

購買北部店では 2007 年 10 月から、購買中央店では 2008 年 4 月から毎日レジ袋使用枚数の計数を行っており、その結果を下の写真のようなボードで掲示を行っております。



購買北部店	利用客数	小	中	大	弁当大	弁当小	レジ袋計	使用率
4 月	37,113	2,166	1,944	1,377	144	227	5,858	15.8%
5 月	42,021	2,749	2,086	1,121	310	227	6,493	15.5%
6 月	35,487	2,438	1,829	962	240	143	5,612	15.8%
7 月	43,444	3,261	2,439	1,247	330	343	7,620	17.5%
8 月	15,452	1,140	901	456	123	124	2,744	17.8%
9 月	20,719	1,298	1,121	693	125	156	3,393	16.4%
10 月	30,271	1,739	1,414	775	188	187	4,303	14.2%
11 月	27,448	1,306	946	508	69	158	4,029	14.7%
12 月	26,973	2,180	1,183	640	126	151	4,280	15.9%
1 月	27,235	1,929	1,306	598	160	175	4,168	15.3%
2 月	18,402	1,339	993	509	114	115	3,070	16.7%
3 月	11,487	861	581	434	54	60	1,990	17.3%

購買中央店	利用客数	小	中	大	弁当大	弁当小	レジ袋計	使用率
4 月 21 日～	8,465	1,934	572	198	187	202	3,093	36.5%
5 月	27,418	5,607	1,669	466	520	534	8,796	32.1%
6 月	29,886	5,961	1,796	470	525	492	9,244	30.9%
7 月	31,147	5,882	1,879	417	911	623	9,712	31.2%
8 月	22,838	3,844	1,595	346	470	397	6,652	29.1%
9 月	25,331	4,643	1,622	427	423	404	7,519	29.7%
10 月	26,726	5,375	1,416	406	416	450	8,063	30.2%
11 月	24,890	5,013	1,683	426	458	495	8,075	32.4%
12 月	22,561	4,400	1,578	501	301	438	7,218	32.0%
1 月	22,741	4,324	1,780	503	320	471	7,398	32.5%
2 月	14,092	2,686	1,087	476	267	2,205	4,159	29.5%
3 月	15,660	2,350	1,124	531	230	408	4,643	29.6%



2008年12月に各食堂に以下のような三角ポップを設置し、レジ袋削減運動への協力を呼び掛けると共に、レジ袋有料化に対するアンケートを実施しました。(詳しいアンケート結果は北大生協のHPをご覧ください。)

今後は、有料化しないでレジ袋削減に努めることで、より多くの組合員と一緒に環境について考えていくことを方針としています。「レジ袋を使用しない人にポイントで還元などをしてはどうか」というご意見もいただいています。有料化も還元もしないで、いろいろな働きかけで組合員の皆様のご協力をいただいて、レジ袋削減を目指します。目標は、購買北部店で10%以下、それ以外の店舗で15%以下です。

《レジ袋有料化に関するアンケート結果》

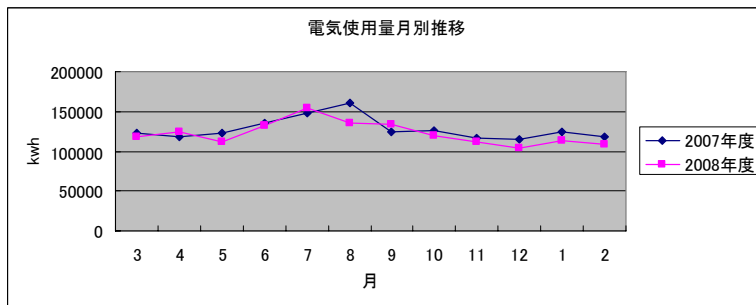
質問項目	回答	件数
レジ袋をもらう頻度	常にもらわない	14
	購入数が少ないともらわない	17
	購入数が少なくてももらう	1
	その他	4
レジ袋有料化への賛否	賛成	17
	反対	15
	どちらでもいい	5
有料化賛成への理由	<p>有料化をすれば環境問題に関する意識が芽生える</p> <p>削減運動に非積極的な人を巻き込むにはある程度の強制力を持った方法が必要</p> <p>漫然ともらっていた人ももらいづらくなり、必要な人は買うと思うから</p> <p>有料化で差益が出れば別のサービスに廻せる</p>	
有料化反対への理由	<p>レジ袋がなくなればゴミ袋を購入することになり、環境問題の解決にはならない。袋の代金を生協と消費者のどちらが負担するかの違いでしかない</p> <p>有料化になってその差益はどこへいくのか</p> <p>自分なりに前向きに行動しているのに馬鹿にされたような気がする</p> <p>もらう、もらわないは個人の判断に任せるべき</p>	
どちらでもいいと思う理由	<p>レジ袋は家で使うので無料なら嬉しいが有料でも買う</p> <p>有料化すると生協の収入になり私たちに還元されるから。しかしわざわざエコバックを持ってくるとは思えないので、削減の効果は期待できない。</p>	



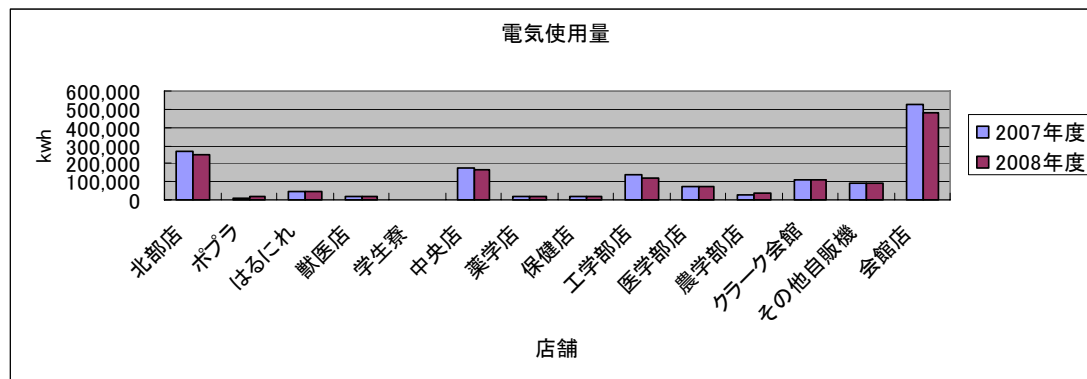
■ 北大生協の電気使用量

電気使用量(kwh)	2007年度	2008年度	増減率	コメント
北都店	266,559	253,649	95.20%	
ポプラ	12,193	18,602	131.80%	食堂は2008年度12月オープン
はるにれ	42,578	48,409	113.70%	
獣医店	17,117	16,308	95.30%	
学生寮	3,780	3,434	90.90%	
中央店	177,010	168,708	95.30%	
薬学店	14,607	14,505	99.30%	
保健店	18,103	16,123	89.10%	
工学部店	140,422	120,777	86.00%	2008年度食堂は12月より工事のため閉店
医学部店	74,446	75,995	102.10%	
農学部店	28,144	39,545	140.50%	2007年度10月まで工事のため閉店
クラーク会館	110,831	114,864	103.60%	2007年度は工事のため2ヶ月閉店
その他自販機	96,732	92,860	96.00%	
会館店	525,350	481,685	91.70%	
会館融雪	4,395	4,144	94.30%	
合計(Kwh)	1,527,873	1,467,071	95.70%	

(上記電気量は、各エリアの自販機の電気量を含んでいます)



1年間でみると夏季の使用量が高く、また会館店の使用量が占める割合は30%以上になっています。下記にまとめましたが、会館店の電気使用量削減や全体でのCoolBizの取り組みの結果、2007年度に比べて大幅に電気使用量を減らすことが出来ました。



○ 生協会館店の電気使用量推移

北大生協の電気使用量のうち、生協会館店の使用量の占める割合が高くなっています。そのため、環境委員会では会館店の電気量削減を重点課題としました。8月に会館の店舗や事務所の電気使用や冷房機器の実態などを調べ、その結果を基に、各店舗の店長と具体的な節電方法を話し合いました。

真夏日30℃以上					
	6月	7月	8月	9月	計
2004	1	6	7	0	14
2005	2	1	5	1	9
2006	0	1	12	0	13
2007	0	1	8	1	10
2008	0	2	2	0	4

湿度%					
	6月	7月	8月	9月	6-9平均
2004	64	75	70	68	69.25
2005	69	75	72	69	71.25
2006	75	71	72	65	70.75
2007	71	69	71	72	70.75
2008	71	75	71	65	70.5



年度	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上期計	下期計	合計
2004	46.843	37.741	37.508	48.063	51.846	47.152	37.396	39.176	38.079	40.668	43.415	42.112	269.153	240.847	510.000
2005	50.087	35.962	32.533	42.571	44.694	49.298	41.504	39.243	37.485	39.722	43.409	40.261	255.146	241.626	496.771
2006	45.237	38.615	35.619	39.563	50.295	55.963	42.635	39.735	37.352	38.952	40.553	39.040	265.292	238.267	503.559
2007	47.514	38.837	37.193	45.512	49.779	55.328	45.338	41.725	42.094	39.502	41.409	41.119	274.163	251.187	525.350
4-7平均	47.420	37.789	35.713	43.927	49.154	51.935	41.718	39.970	38.753	39.711	42.197	40.633	265.938	242.982	508.920
2008	45.058	36.191	32.151	43.442	51.081	47.964	43.860	35.703	36.061	35.358	37.773	37.043	255.887	225.798	481.685
平均との差	-2.362	-1.598	-3.562	-4.85	1.927	-3.971	2.142	-4.267	-2.692	-4.353	-4.424	-3.590	-10.051	-17.184	-27.235
2007年との差	-2.456	-2.646	-5.042	-2.070	1.302	-7.364	-1.478	-6.022	-6.033	-4.144	-3.636	-4.076	-18.276	-25.389	-43.665

- ・ 店舗や事務所内で場所によって暑かったり寒かったりするのですが、エアコンが古いため温度調整が難しくなっています。そのため、冷房の稼働時間を短縮して節電に努めました。例年に比べて真夏日が少なかったことや湿度も高くなかったこともあって、エアコンの稼働率を下げることができました。
- ・ 不要な照明を消すことや、退室時にパソコンの電源を落とすようにしました。節電に取り組んだのは8月以降だったのですが、2008年度は、2007年度や過去4年間の平均値と比べて7月・9月以外で電気使用量を減らすことができました。CoolBizを含めて、職員の意識向上が図れた結果ですが、2009年度はさらに6月～9月の間の取り組みが必要です。

○ 全店でのCoolBizの取組

実施期間：2008年6月2日～9月30日

昨年同様、「ノーネクタイの軽装で、エアコンの設定温度を28度より下げない」ことを基本に、各店舗で取り組み課題を提出してもらいました。

<主な取組目標>

- ・ 営業時間以外の照明は最低限とする。
- ・ ドアは冷気を逃さないために開放しない。
- ・ エアコンの温度設定を上げる。
- ・ 節電・節水に心がける。
- ・ 忙しくない時間帯は食堂のガスの火を弱める。

この結果、北大生協全体の電気消費量は、2007年度に比べて67,000Kwhの減少となりました。ただ、店舗ごとの総括がなされなかったため、2009年度は引き続き目標を定めて取り組むとともに、経過と結果についてまとめていきます。

COOLBIZ

CoolBiz実施の目的

- ・ ノーネクタイなどの軽装にすることによって、体感温度は2℃下がるという研究結果が出ています。冷房中の事務室内温度を上げる(28℃)ことによって電力消費量を抑制します。
- ・ 夏のCoolBizだけにとどまらず、年間通した節電意識の醸成に努めます。

CoolBiz実施について

北大生協は昨年、政府が提唱する地球温暖化防止「チーム・マイナス6%」の取り組みに参加表明し6～9月の4ヶ月間CoolBizを実施しました。本年も北海道大学と歩調を合わせて実施することが決まっております。

2008年度は各店舗ごとに目標を持ち、効果的な冷房機の運用や消費電力の削減に努めることが求められます。

実施期間(提案)：2008年6月2日～9月30日まで



■ 環境配慮への啓蒙活動

北大生協では、組合員の方々に環境問題への意識を持ってもらうことを目的として、生協店舗や組織委員会の活動で環境問題への啓蒙活動を行っています。生協の活動に触れることで、少しでも地球環境や美しいキャンパスについて考えてもらえるよう、さまざまなシーンで呼びかけを行ってきました。

今年の環境配慮の呼びかけ活動を、写真を交えて紹介します。

○大学祭での『ごみナビゲーション』

6月上旬の北大祭で7回目の「ごみナビゲーション」を行いました。「キレイな北大祭を楽しんで、ごみ問題に興味を持って考えてもらおう！」という思いを持ち、学生委員会が企画したこの活動では、

- ・一般北大生：約 100 人
- ・学生委員：約 30 人

が参加し、北大祭内に設置されたごみ箱で、来場者に向けてごみ分別を呼びかけました。

大学祭の実行委員や一年生のクラス委員との連携を図り、去年よりもごみナビを行うごみ箱の数を増やし、より多くの北大生とともに来場者にごみ分別の大切さ、具体的な方法を伝えることができました。

また、環境に優しい容器（リリパック・バイオマスプラスチックカップ）の説明ボードを立て、知識を得てもらいました。

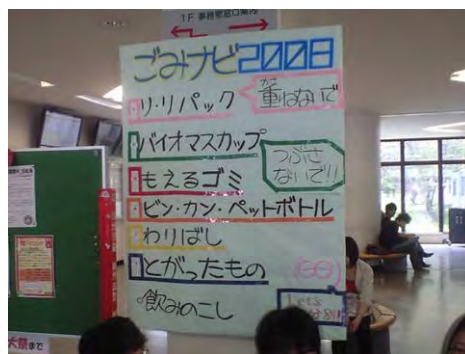
活動当日、何人かの北大生が飛び入りでナビゲーターとして参加している姿も見られ、北大祭の来場者に環境問題についての意識喚起をすることができました。



○今年で5年目「ごみナビジャーショー」!!

生協学生委員が北大祭をキレイに守る「ごみナビジャー」に扮し、ごみ分別の大切さを伝える「ごみナビジャーショー」が今年も行われました。

北大祭期間中に5回行った公演では、子供から大人まで多くの人にごみ分別について、楽しく知ってもらうことができました。





○組織委員会発行の機関紙内での情報提供

各組織委員会で発行している機関紙の中で、環境課題に関することを取り上げました。

各記事の中で、組合員の方々への情報提供と、環境問題について考えることを提案しています。

『letter』（学生向け機関誌）

- 2008 初夏号 「北大生協は今!?!」
…北大生協の環境問題への取り組みを紹介
- 2008 夏号・秋号 「letter de しゃべり場」
…森林環境税の導入について

『きぼうの虹』（院生・教職員向け機関紙）

- 2008年4月1日発行 第315号
リサイクルコーナーを利用してください
(コピー紙、牛乳パック、不要自転車のリサイクルについて)
レジ袋利用率の削減状況報告
- 2008年8月1日発行 第317号
組合員の声への回答・生ゴミリサイクルについての紹介
- 2008年10月1日発行 第318号
生協教職員セミナーに参加報告
(三重大大学のレジ袋有料化、エコバッグ配布についての紹介)
- 2008年12月1日発行 第319号
大学生協連主催の環境セミナーへの参加報告
(学生組織委員：早川和宏)



○ゴミ処理場見学ツアー



2008年11月21日に北大生協から出る生ごみの処理を契約している食品リサイクル工場の見学ツアーを行いました。北大生協の内部学習会として、教職員組織委員3名、学生組織委員3名、生協職員2名が参加し、生ごみの処理過程を見学しました。

三造有機リサイクル(株)では、湯温減圧式乾燥システムという方法を用いて、札幌市内で排出された生ごみを、肥料や、家畜・魚類の飼料としてリサイクルしています。



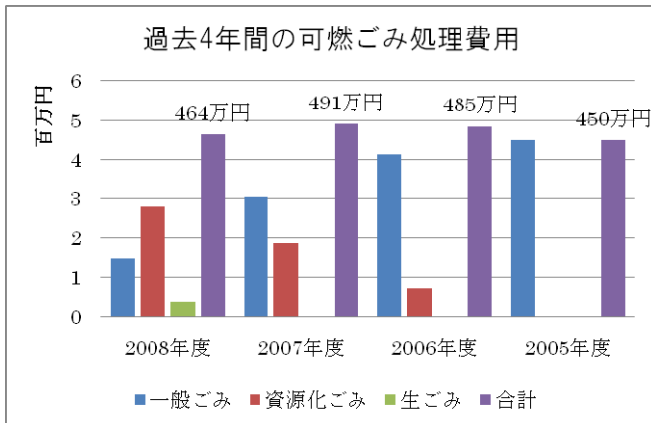
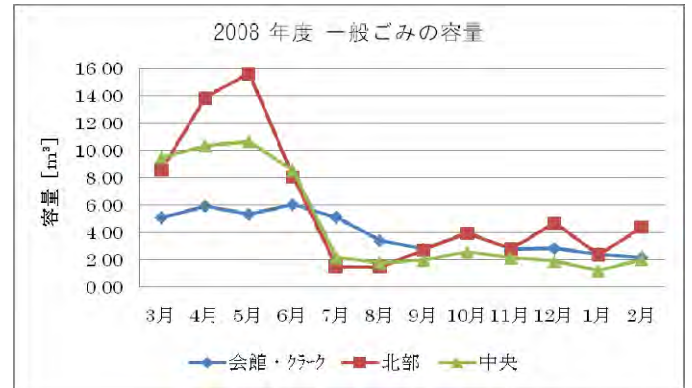
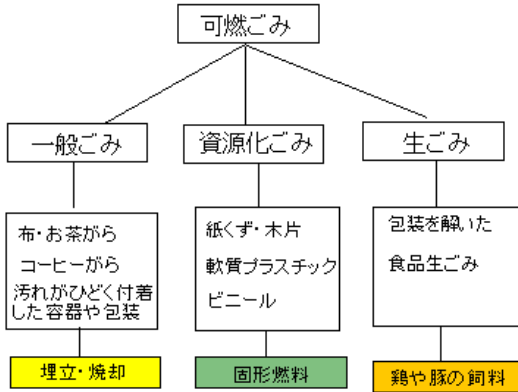
北大生協では、札幌リサイクル団地(札幌市東区中沼町)の中にある三造有機リサイクル(株)に生ごみの処理を依頼しています。昨年度からはじめて一般ごみからの生ごみの分別作業により、以前に比べて、生ごみの排出量が増えています。



◇ その他の取り組み紹介

■ 食品生ごみの分別～北大生協のごみ分別状況

北大生協では、昨年の6月から以前は一般ごみとして廃棄していた生ごみの分別を実施しています。回収した生ごみは札幌生ごみセンターで鶏などの飼料に利用されています。今まで一般ごみだった容器も、生ごみを除いてきれいにするによって資源化ごみになったため、各食堂では一般ごみが激減しました。



左下の表から分かるように、可燃ごみは増加傾向にあり、2008年度も排出量が増加していますが、従来は一般ごみとして処理していた生ごみの処理料が一般ごみより安く済むため、費用減少につながりました。ところが、2009年から札幌市のごみ処理料が値上げ（生ごみで約33%）になるため、2009年度の可燃ごみ費用の削減は見込めません。

※資源化ごみの分別は 2006 年度から開始されました。06 年度、07 年度、08 年度の6月までは燃えるごみ（一般ごみ）に生ごみが含まれています。

●可燃ごみ排出量の合計

2005 年度	1034.70 m ³
2006 年度	1054.18 m ³
2007 年度	1142.26 m ³
2008 年度	1188.34 m ³

●可燃ごみ処理費用（2009年4月からは括弧内金額）

可燃ごみの種類	処理料[円/m ³]
一般ごみ	4,350(5,200)
資源ごみ	3,750(4,600)
生ごみ	3,750(4,900)



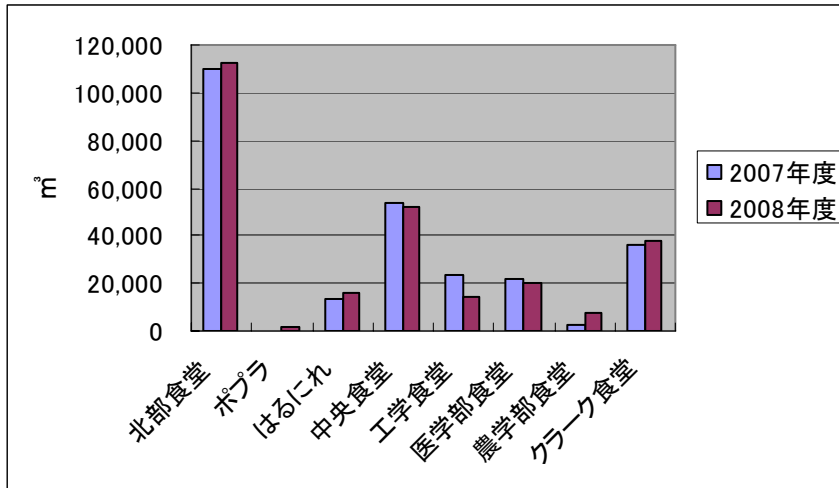
北大生協での生ごみ分別が 2008 年 7 月 11 日の朝日新聞に掲載されました。



■ ガス使用量

ガス使用量(m ³)	2007	2008	増減率	客数増減率	コメント
北部食堂	110,178	112,056	101.7%	101.0%	
ポプラ	0	1,438			2008年度12月オープン
はるにれ	13,710	16,220	118.3%	108.5%	
中央食堂	53,372	52,230	97.9%	101.7%	
工学食堂	23,469	13,863	59.1%	69.4%	2008年度12月から閉店
医学部食堂	22,114	20,405	92.3%	99.2%	
農学部食堂	2,594	7,242	279.2%	147.1%	2007年度は10月まで閉店
クラーク食堂	35,682	37,786	105.9%	115.8%	2007年度は1.5ヶ月閉店
合計(m ³)	261,121	261,385	100.1%		

	用途	ガスの種類
北部食堂	調理	北ガス
	給湯	北ガス
	暖房	北大
ポプラ	調理	北大
	給湯	北大
	暖房	北ガス
はるにれ	調理	北ガス
	給湯	北大
中央食堂	調理	北ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
工学部食堂	調理	(LPガス)北ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
医学部食堂	調理	北大
	給湯	北大
	暖房	北大
農学部食堂	調理	北ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
クラーク食堂	調理	北ガス
	給湯	北大
	暖房	北大



ガスは店舗ごとに北ガスと北大から供給を受け、その用途も調理用・給湯用・暖房用に分かれています。工学部食は調理用にLPガスを使用していましたが、2009年4月の改装後は北ガスからの供給となります。概ね、客数の増減とガス使用量は比例しています。

■ ガソリン・軽油・重油使用量

	2006	2007	2008	2006車両台数	2007車両台数	2008車両台数
ガソリン(ℓ)	8,411	8,972	8,664	32	32	31
軽油(ℓ)	3,443	2,314	2,705	6	5	4
重油(ℓ)	25,000	24,084	18,000	ボイラー	ボイラー	ボイラー

ガソリンは31台の営業車(軽自動車)で使われていて台数が減った分使用量も減少しています。逆に軽油はワゴン車が1台減りましたが、使用量は増えています。重油は会館店の暖房用ボイラーに使用されていますが、2008年は記録的な暖冬のため、大幅に減少しています。

■ 紙の再資源化

古紙回収量(t)	2007年度	2008年度
購買北部店	15.25	16.29
はるにれ	1.97	2.16
購買中央店	13.3	13.8
購買工学部店	12.29	9.13
購買医学部店	2.01	2.14
購買農学部店	1.93	1.94
印刷情報SV	11.36	8.77
生協会館店1F	36.68	34.05
合計	94.79	88.28

- 不用になった書類・新聞・雑誌などは各事務に回収BOXを用意したり、学内3ヶ所の回収BOXに組合員さんに入れていただいております。再資源化できるようにしております。
- 牛乳パックは、学内3ヶ所(会館店1階・中央店1階・北部店2階)にある回収BOXに組合員の皆さんに入れていただいております。回収量は毎年少しずつですが増えています。



産業廃棄物の回収量

商品購入に関わり不用になった家電家具・PCや、梱包資材に多く使われている発泡スチロールは、会館店保管庫にある程度溜まってから回収してもらっています。その他食堂のある店舗では、「たれ」などの調味料等の廃プラスチックボトルや食材の入っていた発泡スチロール、切れた蛍光灯などの産廃が発生しますので、毎月定期的に各店を回って回収してもらっています。

会館店保管庫回収量（2008年度）

品名	単位	数量
発泡スチロール	m ³	21
可燃物	m ³	4
不燃物	m ³	20
PCモニター	個	7
PC本体	個	10
テレビ	台	2
電子レンジ	台	1
プリンター	台	6
デッキ	台	3

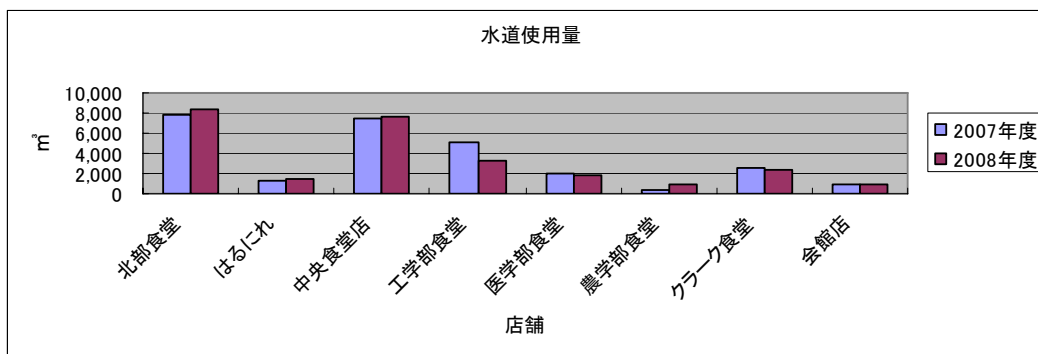
2008年度		数量	北部店	はるにれ	工学部店	中央・農学部店	医学部店
品名	単位						
産廃混合	m ³	30.2	10.1	0.3	10.8	8.7	0.3
廃プラ混合廃棄物	kg	180.0	180.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃プラスチック類	m ³	14.2	8.0	2.5	1.4	2.2	0.1
金属くず	m ³	5.9	1.2	1.4	3.0	0.3	0.0
廃蛍光灯	本	171.0	28.0	21.0	40.0	82.0	0.0
発泡スチロール	m ³	14.2	3.6	1.5	1.8	6.8	0.5
廃乾電池	kg	9.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0
ガラス、陶磁器くず	m ³	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属混合廃棄物	kg	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃OA機器 周辺機器	個	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃電球	kg	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0

（エリアごとの回収内容）

2007年度		数量
品名	単位	数量
産廃混合	m ³	7.4
廃プラ混合廃棄物	kg	190.0
廃プラスチック類	m ³	23.8
金属くず	m ³	14.0
廃蛍光灯	本	123.0
発泡スチロール	m ³	4.0
廃乾電池	kg	25.0
ガラス、陶磁器くず	m ³	0.1
金属混合廃棄物	kg	60.0

水道使用量

水道使用量(m ³)	2007年度	2008年度	増減率	客数前年比	コメント
北部食堂	7,815	8,413	107.7%	101.0%	
はるにれ	1,185	1,421	119.9%	108.5%	
中央食堂店	7,452	7,591	101.9%	101.7%	
工学部食堂	5,034	3,320	66.0%	69.4%	2008年度12月より工事のため閉店
医学部食堂	2,032	1,804	88.8%	99.2%	
農学部食堂	294	943	320.7%	147.1%	2007年度10月まで工事のため閉店
クラーク食堂	2,596	2,372	91.4%	115.8%	2007年度工事のため1.5ヶ月間閉店
会館店	960	980	102.1%		
合計	27,368	26,844	98.1%		



はるにれが客数の伸長以上に水道の使用量が増えています。クラーク食堂は逆に2007年度に閉店しているにもかかわらず2008年度の使用量が減っています。麺の売れ行きにも左右されるのかなどの検証が必要です。2009年は水道使用量を抑える具体的な方法を探っていきます。



■ 使用済みカートリッジの回収

ベルマーク道内ベスト 20 (2008年度)

年	月	キヤノン		エプソン		合計	
		本数	点数	本数	点数	本数	点数
2007年	9月	26	1,300	48	2,400	74	3,700
	10月	167	8,350	635	4,750	802	13,100
	11月	764	8,050	388	8,150	1,152	16,200
	12月	158	7,900	133	6,650	291	14,550
2008年	1月	863	7,150	659	10,450	1,522	17,600
	2月	143	3,235	574	6,245	717	9,480
	3月	0	0	106	5,300	106	5,300
	4月	421	10,835	826	9,350	1,247	20,185
	5月	167	8,350	97	4,850	264	13,200
	6月	1,352	9,100	1,297	10,850	2,649	19,950
	7月	93	4,650	272	4,600	365	9,250
	8月	621	8,550	521	8,050	1,142	16,600
	9月	501	7,050	443	6,400	944	13,450
	10月	568	8,150	480	8,250	1,048	16,400
	11月	424	7,700	471	7,800	895	15,500
	12月	382	5,600	466	5,300	848	10,900
2009年	1月	424	7,700	471	7,800	895	15,500
	2月	518	7,900	842	8,350	1,360	16,250
	3月	204	5,430	364	6,950	568	12,380
	4月	722	9,100	694	8,465	1,416	17,565
合計		8,518	136,100	9,787	140,960	18,305	277,060

順位	PTA名称	所在地	検収点数
①	札幌北斗高	札幌市	586,394
②	稲田小	帯広市	116,446
③	北海道大学女性研究者支援室	札幌市	113,967
④	柏小	帯広市	113,615
⑤	大谷地東小	札幌市	111,285
⑥	いずみ野小	江別市	94,432
⑦	成央小	根室市	92,664
⑧	若草小	登別市	92,084
⑨	栗山小	栗山町	83,997
⑩	栄西小	札幌市	81,153
⑪	緑丘小	〃	76,383
⑫	美香保小	〃	73,143
⑬	宮の森小	〃	68,012
⑭	篠路小	〃	67,563
⑮	桜木小	千歳市	66,308
⑯	啓西小	帯広市	63,543
⑰	屯田小	札幌市	61,330
⑱	富岸小	登別市	60,919
⑲	上江別小	江別市	59,658
⑳	柏陽中	恵庭市	58,052

北大女性研究者支援室では、ベルマーク活動で集めた点数で理科用品を購入し希望する学校に寄贈する取り組みを行っています。エプソンとキヤノンが使用済みプリンタートナーやカートリッジのリサイクルを促進するためベルマークに協賛し、回収送付した団体にベルマーク点数を付与する制度を利用したものです。生協店舗内に回収BOXを設置し、研究室からの回収依頼に生協が対応しております。2008年度は、さらに一歩進めて、訪問回収イベントや一定期間回収BOXをロビーなどに設置させていただくなどの活動を行い、回収数も上がりました。活動開始から1年強で集まったベルマーク点数は17万5千円相当となり、2009年初めに公募した中高4校に理科用品が寄贈されました。生協では、今後ともこの活動を支援し、回収・保管・分別・発送全般にわたって協力してまいります。

■ 食堂廃油のBDF化

食堂で使われた揚げ物用の油（植物油）は全て回収し、BDF（Bio Diesel Fuel）の原料としています。BDFは軽油と比較して環境負荷が非常に少なく、CO₂の排出量はゼロカウントになるなど、環境・健康に優しいエネルギーとして注目されています。

回収された廃油は、主に札幌市の公用車（ごみ運搬車など）に利用されています。

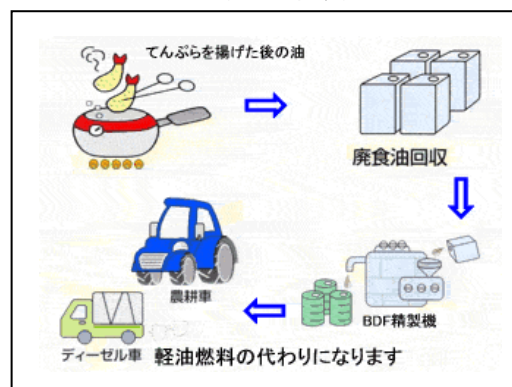
2008年度食堂廃油回収量

廃油提供量(L)	2007年度	2008年度
北部食堂	2,559	2,949
レストランポプラ	0	95
はるにれ	365	553
工学部食堂	596	426
中央食堂	1,670	2,102
医学部食堂	733	649
農学部食堂	129	465
クラーク食堂	1,328	1,111
合計	7,380	8,350

会館店1F、中央店1F、北部店2Fで組合員の皆様からの廃油回収コーナーを設けております。



○ BDF(軽油代替燃料)精製までの流れ





■ 国産間伐材割り箸の使用

北大生協の食堂で使用している割り箸は全て、持続可能な森林管理の行われている北海道下川町のF S C 認証林から産出している間伐材で作られています。

日本の森林全体の約 40%を占める人工林は間伐をしなければ丈夫な木が育たず荒廃します。間伐材とは、この間伐された木材のことです。間伐材割り箸を利用することは、安定的に間伐材需要を増加させて、日本の森林の育成に協力することになります。コープさっぽろでも 2008 年 10 月から、デリカなどにつける箸は下川町のF S C 認証林割り箸になりました。

FSC 認証は、森林の管理認証 (FM 認証) と加工・流通過程の管理認証 (CoC 認証) の 2 つからなっています

認証ロゴマーク



■ グリーン適合商品の優先供給

循環型社会の形成のためには、「再生品等の供給面の取組」に加え、「需要面からの取組が重要である」という観点から、平成 12 年 5 月に循環型社会形成推進基本法の個別法のひとつとして「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 (グリーン購入法)」が制定されました。大学生協では、グリーン購入法適合商品優先購入のお手伝いになるように、文具商品カタログに「適合品マーク」を付けておりましたが、紙や樹脂の偽装が明らかになって以降は環境配慮事項は記載しないことにいたしました。環境配慮事項が確認されたものについては、Web カタログで追記、更新いたします。また、お買い上げの際に分かりやすいように、文具にはプライスカードやお買い上げレシートに適合商品マークを表示させています。

商品名の前に@マークが付いている商品は適合品

「13@PFE-80」

商品名の前に*マークがついている商品は不適合品

「13*F-367-8」



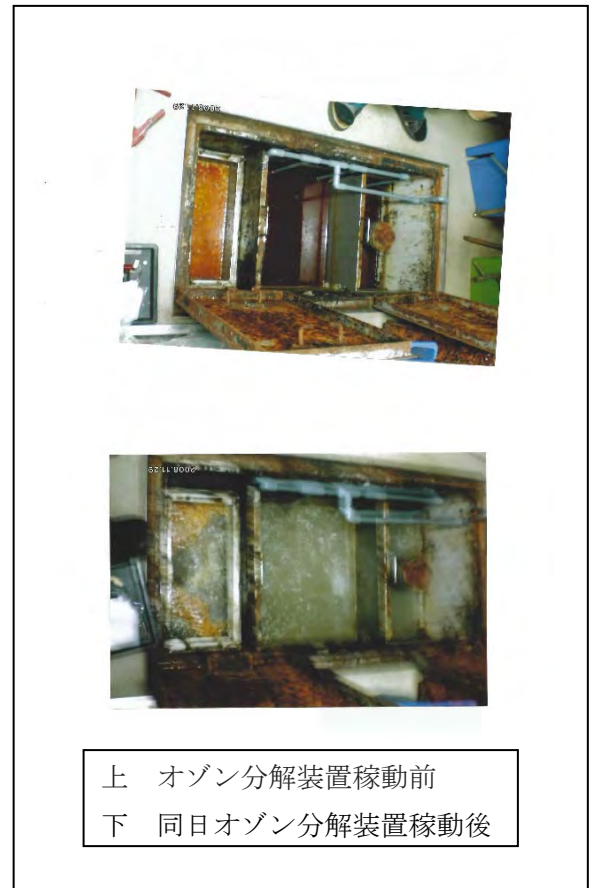


■ 食堂の排水の管理

グリストラップは、厨房・その他の調理場から排出される排水中に含まれる油脂を分離・捕集するために設置されるものです。従って、厨房排水の中に含まれる油脂分を、直接下水道や浄化槽に流さない役割をしています。また、排水管中に油脂が流出して管が詰まることを防止しています。このように、グリストラップ内には生ごみや油脂が蓄積されますので、職員が毎日スカム（気泡によって浮かび上がった汚泥等）の除去を行っています。

オゾン分解装置はグリストラップ内にオゾンを生産させて雑菌と油分を分解することにより、臭いを大幅に減少させ併せて排水もかなり浄化されます。北大生協の食堂では、クラーク店、農学部店、中央店、医学部店、工学部店がオゾン分解装置を取り付けていて、毎日の清掃がきちんと行われていれば、汚泥・汚水の引き抜きや清掃は殆ど必要ありません。（工学部食堂はオゾン分解装置は付いていますが、地下にグリストラップがあるため、1階に設けられた雑排槽の清掃が必要です。）はるにれと、新しく出来たレストランポプラ、外にグリストラップのある北部食堂はオゾン分解装置が付いていませんので、1年に2回くらいの汚泥・汚水の引き抜き清掃が必要です。

水質検査は清掃後に行っていますが、取水のタイミングや場所などによって数値がかなり変動するため、あまり参考になっていません。2009年度は同じ状態での取水を行い点検と対策を行う予定です。



上 オゾン分解装置稼動前
下 同日オゾン分解装置稼動後

■ 不要自転車・放置自転車の回収…リサイクル自転車販売

北大生協では学内の放置自転車の増加を未然に防ぐために卒業生などから無償で不要自転車をいただき、安全に乗れるよう整備をして販売する取り組みをしています。

○ 不要自転車の受付の流れ

本人が生協会館店に自転車を持参し、自転車防犯登録抹消届書を記入します。店舗では自転車を預かり、会館前の保管場所に移動します。

取引先の中古自転車販売店が定期的に自転車を引き取り、使える部品を組み合わせで整備して中古自転車として再生し会館店で販売します。



○放置自転車の引き取りの流れ

2006	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	T	
組合員									12	10	1	8	55	86
施設部									50	11				61
合計	0	0	0	0	0	0	0	62	21	1	8	55	147	
2007	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	T	
組合員	32	13	11	9	10	4	19	19	10	1	8	105	241	
施設部								37					37	
図書館			72										72	
情報基盤										8			8	
歯学部									33				33	
大学計	0	0	72	0	0	0	0	37	33	8	0	0	150	
合計	32	13	83	9	10	4	19	56	43	9	8	105	391	
2008	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	T	
組合員	15	12	11	7	18	14	15	14	14	3	13	107	243	
施設部						13			42				55	
財務部						49			21				70	
図書館						35							35	
情報基盤				6									6	
歯学部		37											37	
高教センター		170										185	355	
学務部		42											42	
保健学科		42											42	
病院					148								148	
法学部						162							162	
低温研						5							5	
生協会館前			22	4					20				46	
中央食堂横												45	45	
大学計	0	291	22	10	148	264	0	0	83	0	0	230	1048	
合計	15	303	33	17	166	278	15	14	97	3	13	337	1291	



大学部局は、まず放置自転車の車体番号、防犯登録番号を警察に届け、盗難届が出ていないかどうかを確認します。盗難届の出していない自転車に警告文書を付けて、3ヶ月以上経ったものについて、北大生協に連絡をいただいて、取引先の中古自転車販売店が引き取ります。そのあとの流れは前述と同じです。

2007年度は大学部局から頂いた自転車は1年間で4学部150台でしたが、2008年度は11学部1,048台になりました。

不要自転車 引き取ります!

～不要な自転車は生協が**無償**で引き取ります～

- 卒業や買い換えなどで、ご不要となった自転車は不法に投棄せず生協へお譲りください。
- 生協では使える自転車を整備し直してリサイクル自転車として活用いたします。
- 使えない自転車も無償でお引き受けて、生協で正式に処分いたします。

お申し込みは **北大生協会館店1Fカウンター**
又は**3F理事会室**へお越しください。



【自転車の放置禁止】



放置禁止

- 生協会館前はお買いものための駐輪と、リサイクル自転車の一時保管場所となっております。それ以外の駐輪は固くお断りいたします。

— 以下の行為を禁止いたします —

1. 生協会館に用のないときの日中の放置
2. 週末・長期休暇などによる長期放置
3. 夜間の放置

- 上記行為の場合、該当自転車を別の場所へ移動する事があります。保管に費用がかかる場合は自転車所有者にご負担いただきます。

北海道大学生協同組合

北大構内の放置自転車は増えていますが、組合員ご本人が生協に不要自転車として持ち込まれる台数は243台と、昨年・一昨年とほぼ同数です。また、引き取り依頼をいただける学部も4から11と増えてきましたが、まだごみとして廃棄されている自転車も多くあります。学内から放置自転車をなくすために、今後もポスターで組合員に呼びかけるとともに、できるだけ中古自転車として再生させるためにたくさんの学部に働きかけをしていかなければなりません。

←組合員へのお知らせ



■ 組合員の環境活動への支援

○ ecoeco Reuse (旧:大学リユース市協議会) への支援

実施報告書 ecoeco Reuse(旧大学リユース市協議会)

- ◇名称/サッポロカレッジリユースフェア
- ◇開催日/平成21年3月10日~11日
24日~25日
- ◇開催時間/10時~17時
- ◇Web開催日時/平成20年3月8日9時 ~ 9日17時
23日9時 ~ 14日17時
- ◇会場/北海道大学 クラーク会館2F
- ◇開催内容/不要となった家具・家電の抽選による提供(約60点)
- ◇主催/ecoeco Reuse
- ◇共催/アースカフェ「in the Loop」、さっぽろスリムネット、札幌市
- ◇協力/北海道大学生生活協同組合

平成21年3月、サッポロカレッジリユースフェア2009が行われ、多くの関係機関の協力を得て大盛況のうちに終了した。同イベントは、「リユース」という仕組みをもっと広め、リユースフェアを通じて同じ大学生にゴミ問題や環境問題を意識してもらうことを目的に大学リユース市協議会の主催で開催した。当日は多くの新入生を中心とした大学生・教職員が来場し、卒業生らから回収したほぼ全ての品物を提供することができた。Web上でも提供品を見られるようにすることで、より多くの人から関心を得られた。

今年で5回目となるリユースフェアに、昨年引き続き会場設営などで協力を行いました。昨年と同様、クラーク会館2階でカタログ・パネル展示により抽選販売が行われています。北大生協は備品の貸出や情報宣伝で協力しました。



展示されたカタログ



集まった家具



抽選の受付



家具の配送



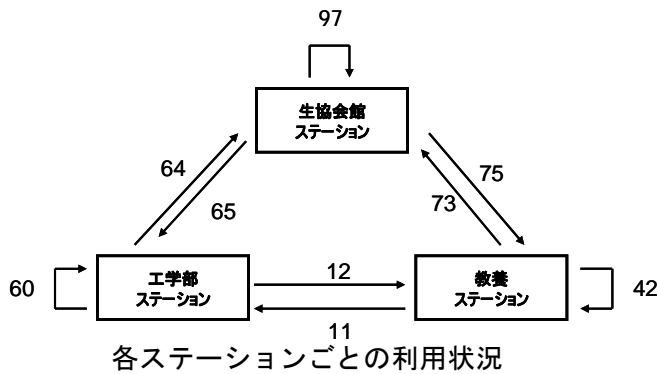
○ 北大自転車 MOTTAINAI プロジェクトへの支援

2008 年 8 月から開始したサイクルシェアリングプロジェクトに、生協が回収した中古自転車を提供しました。この活動は工学研究科の院生が中心となって立ち上げたプロジェクトで、不要になった自転車を構内のステーションに設置し、その間で自由に自転車に乗ることができるシステムです。

北大生協はシェアサイクル用の中古自転車の提供（整備済み）に協力しました。2008 年 11 月末日時点で、提供した中古自転車は 20 台、プロジェクトの利用登録者数は 40 人です。



ある日の生協会館店ステーション



Mottainai Cycle²
2008年8月1日
北大で新形態レンタサイクルが始まる!!
 北大で近未来型レンタサイクルが社会実験として始まります！^{※1}
 放置されていた自転車がリサイクルされてみんなのための自転車として生まれ変わりました。
 レンタサイクルサービスは会員制です、
 会員になると・・・
 ・24時間いつでもレンタル可能！
 ・携帯電話の2次元バーコード読み取り機能を使って簡単レンタル！
 ・構内3カ所（教養・工学部・生協会館店）の拠点でレンタル・返却可能！
 ・利用料金は無料で構内なら乗り放題！^{※2}

借り方:
 1. 3つのステーションのどれかに行く
 2. ホスターの2次元バーコードを読み取って専用サイトへアクセスして予約
 3. 携帯メールで予約の承認通知を受け取る
 4. サイクリング開始！！

返し方:
 1. ステーションに戻る
 2. 2次元バーコードを読み取って専用サイトへアクセスして予約
 3. 確認メールを受け取って完了！！

生協北店（北斎食堂）2階にて特設カウンター設置！！
 7/30(水) 11:30～13:30
 7/31(木) 11:30～13:30
 8/1(金) 12:00～13:00

お問い合わせは mc²運営事務局までご連絡ください。
mc² 運営事務局
 北海道工学部 1208 号室 社会基盤計画学研究室内
 E-mail: mc2@208-ep.eng.hokudai.ac.jp

※1: 第1回目の社会実験期間は、8/1-8/31です。継続利用は予約なく返却することがあります。
 ※2: 通常利用に比べ料金として200円以内を申し受けます。乗り方は社会実験期間中に掲載いたします(冊子)を詳しく。
 ※3: 1回の利用時間制限は30分以内とさせていただきます。

告知ポスター



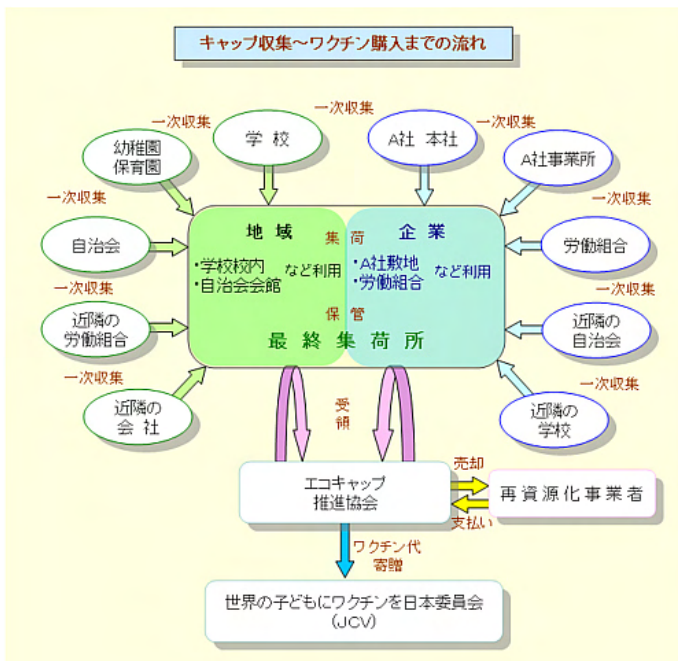
ステーション配置図



○ 北大学生ボランティア相談室（エコキャップ）への支援

北大学生ボランティア相談室で取り組んでいるエコキャップの活動に対して、協力を行いました。この活動は直接的には環境保護に関わるものではありませんでしたが、北部食堂への回収ボックスの設置や回収団体の紹介を行いました。その後、北大生協が紹介したリサイクル業者にペットボトルキャップを約 3,500 個引き渡した旨の報告が寄せられました。

※エコキャップ…ペットボトルキャップを集め回収業者に送ると、換金額に応じて途上国にポリオワクチンを送ることができる活動。



教養棟ロビーのキャップ回収ボックス

■ ビン・缶・ペットボトルの再資源化

札幌キャンパス内の自動販売機に備えてある空き缶入れのビン・缶・ペットボトルをリサイクル業者に回収してもらい、再資源化を図っています。キャップも含めてすべてリサイクルされています。

	単位/月	2007年度	2008年度
スチール缶	Kg	14,888	15,074
アルミ缶	Kg	3,723	4,210
ビン	Kg	7,977	7,741
ペットボトル	m	756.66	681.41
一斗缶	個	619	565
食用缶	m	54.86	32.27



ペットボトル……………粉砕して繊維製品などに
 アルミ缶……………プレスして再度飲料用のアルミ缶に
 ガラス瓶……………スーパーソル（人工軽石）に
 スチール缶……………プレスして建築用資材などに



2009年5月28日

編集 北海道大学生協同組合 理事会室
札幌市北区北8条西7丁目
011(746)6218